

ふれあい

2011.1.15
No.177

発行：ふれあい編集委員会 〒220-0011 横浜市西区高島2-5-12 善仁会グループ TEL：045(453)6772 ホームページアドレス<http://www.zenjinkai.or.jp/>



「信頼」への思い

年頭にあたって



明けましておめでとうございます。

穏やかなお正月を迎えられたことと、心よりお喜び申し上げます。

昨年に引き続き、今年も世界で日本の活躍が見られる年になることを期待したいものです。昨年後半に話題となったノーベル化学賞を受賞された鈴木章、根岸英一両博士の研究は、世界中の新薬の開発や液晶技術の基礎を支えていますし、小惑星探査機「はやぶさ」の快挙は、多くの方々が果敢に未知の世界へ挑戦した結果として、日本人の卓越した「ものづくり」の力を示しました。

透析技術の進歩もまた目覚しく、日本で透析療法が開始されてからの約40年の間に、患者の皆様を取り巻く環境は大きく改善いたしました。そして、現在の我が国における透析医療の質は世界最高とされています。我が国の最長透析歴は41年8ヶ月となり、腎不全とその合併症の管理・予防において幾つもの画期的な進歩がありましたし、今後も治療方法が進歩することは間違いのないことでしょう。

私たちは慢性腎不全およびそれに伴う疾病をしっかりと管理し、患者の皆様には快適な生活を送っていただくために、皆様と力を合わせて良質な医療を作り上げたいと願っております。日常の診療において、最良と思われる治療選択を十分にご説明させていただき、皆様にご納得いただける医療を提供すること。そのためには、まず私たちが、「この人なら任せて大丈夫」と信頼していただけるような医療スタッフにならなければなりません。スタッフ全員が心をひとつにし、皆様の笑顔を願って日々精進を重ねて参る所存でございます。

関係各位におかれましては、本年が平和な一年でありますよう祈念いたしますとともに、一層のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



善仁会グループ

代表理事 渡邊 光康

特集



「信頼」への思い

医療にかかわる人間にとって、患者さまからの信頼は原点であり、最終目標です。

さまざまな現場スタッフの声をあつめました。



信頼への第一歩

戸塚セントラルクリニック
看護部 副主任

稲葉 由子



透析患者さまの中には、年齢や性別、透析歴の違いなど様々な方がいらっしゃり、同じ透析治療を受けられていても個々に違いがあります。

時に患者さまはいろいろなお話をして下さることがあります。特にご自身の透析の歴史や経験したことのお話の中には、その患者さまの「本当はこんな時にこうしてほしい」という要望であったり、透析中の看護を行っていく上でのヒントが隠れていることがあります。そのことを

見逃さずにしっかり受け止め、患者さまのことを理解すること、そしてお一人お一人に合った対応を行うことが患者さまからの信頼につながるのではないかと思います。

患者さまが何でも話しかけやすいようにコミュニケーションをとる事、そして患者さまの立場にたった看護を提供できるよう日々努力していきたいと思っています。



相手の立場になって

横浜第一病院
臨床工学部 副主任

岩佐 基子



治療に携わるうえで、技術や知識の向上は必要不可欠であると思いますが、信頼関係はそれ以外の要素も重要であると感じています。私は、「相手の立場になって考える」事を心掛けています。この類の言葉はよく耳にしますが、実践するとなると難しい事です。かくいう私も、入職して1、2年はいかに親切な事ができるか、優しさのある行動ができるかという事しか考えていなかったように感じます。

しかし、これは本当に相手の立場になって考

える事ができているのでしょうか？自分にとっては思いやりのある行動であっても、相手が必要としていなければ、また心が伝わってなければただの自己満足でしかない事に気がきました。

今、自分の姿や声、表情は患者さまからどう見えているのか？患者さまの目を通した自分の姿を考える事が、相手の立場に立つ第一歩だと考えています。信頼される臨床工学技士になれるよう、今後も努力したいと思っています。



「信頼」のために

中山駅前クリニック
看護助手

大久保 弘美



看護助手として、医療の現場での患者さまとのかかわりの中で、「信頼」をして頂く為に私が心がけている事は、笑顔であいさつをすること。そして患者さまの話に耳を傾け、それに対して心のこもった声かけをし、時には背をさすり、手をにぎることです。

しかし、すべての患者さまが心を開いてくれる訳ではありません。

距離を縮めることの難しい患者さまにも、その場面・場面で自分に何ができるのかを考え、

思いやりをもって接することでケアの核心となる「信頼」につなげていきたいと思っています。

そしてすべての患者さまにできる看護助手としての私達の仕事は、清潔で快適な環境の中で気持ち良く、安心して医療を受けて頂くことができる様にすることです。

日々の目に見えない気くばりから「信頼」が生まれることを信じて、努力していきたいと思っています。



信頼を築く

緑園都市クリニック
事務部

堤 宏美



“信頼”とは、読んで字の如し、信用して頼る、頼られるという事です。とても簡単なようですが、とても難しい事だと思っています。

信頼を得るには多くの時間、労力を必要としますが、失う時はほんの一瞬です。お互い理解し合い、協力出来なければ成り得ないでしょう。

私自身、患者さまはもちろん、スタッフとも信頼関係を築くことは、仕事をスムーズに進めたり、お互いが相乗効果により成長したり、何より

自分の居場所が出来ると、とても大切にしていきたい事の一つです。

その為には、患者さまと向き合う時は常に笑顔で対応する、何か質問されたら時間を空けずに返事をする。仕事を頼まれたらその日の内に終了するなど、何事も誠意を持って対応していく事を心掛け、信頼関係を少しでも広げていければと思っています。





「信頼」

二俣川第一クリニック
事務長

伊藤 大介



私たちは「患者さま」と「職員」である前に「人」と「人」であり、知識や技術の前に、笑顔や挨拶といった関わりが大切だと考えています。これは職員同士にも言えます。

個人的には、公私を混同しないこと、嘘をつかないことを信条としています。

私心に基づいた指示や判断が、小さな関わりの積み重ねによって築かれた信頼関係にヒビを入れ、ひとつの嘘が一瞬で崩壊させてしまうからです。

以前勤めていた会社の上司が、この信条を

体現しており、その姿勢は時に冷徹に映りましたが、指導や評価を受ける場面で自分に伝えられる言葉は信じられるものでした。その為、指導は真摯に受け止められ、誉められれば嬉しく、仕事のやりがいにも繋がりました。

これは一例ですが、世の中には様々な人がいて、関わり方も複数あり、その中で信頼されたり、そっぽを向かれてしまうこともあります。しかし、笑顔で挨拶されることを嫌がる人は世界中どこにもいないと思います。



患者さまに信頼されるために

中目黒クリニック
臨床工学部

太田 理美



私が臨床工学技士として中目黒クリニックに入職して半年以上が経ちました。

入職して間もない頃は、不慣れな業務に戸惑い患者さまにたくさん迷惑をかけてかけてしまっていたのですが、今では患者さまに名前を覚えていただき、「太田さん」と呼んでいただく機会が増えとても嬉しく思っています。

私が患者さまから信頼を得るために日頃心がけていることはあいさつと身だしなみはもち

ろんのこと、患者さまの声に耳を傾けるという事です。

どんな事でも患者さまにこうして欲しいと言われれば応えられる技士でありたいと思っています。こうした思いが私の仕事へのやりがいにつながっていると実感しております。

臨床工学技士としてまだまだ未熟ではありますが、患者さまから信頼される存在になるため日々努力をしていきたいと思っています。





信頼を築くために

国分寺南口クリニック
臨床工学部 主任
福島 恵美子



私が国分寺南口クリニックで仕事をするようになってから早いものでもう20年が過ぎました。今回「信頼」というテーマをいただき、改めて自身のことについて振り返ってみますと、果たして患者さま1人1人と十分な信頼関係を築けているのか？不安なところですよ。

「信頼」とは、お互いが信じあい、頼りあうことで感情の一方通行では成立しない非常に難しいことですが、私が日々気をつけていること

があります。それは、「少しでも心に寄り添えるよう、自分の心を飾らずに本音で接すること」です。

100人の患者さまがいれば100通りの考え方、生活があると思います。患者さま全員の信頼を得ることは中々難しいと思いますが、私の信頼するクリニックのスタッフ1人1人と協力して、患者さまから信頼を得られるよう、日々努力を続けていきたいと思っています。



透析室ナースとなって

吉祥寺あさひ病院
看護部
松岡 順子



私は、今年の4月に透析室に入職しましたが、以前は急性期の病棟に勤務していました。そこでの患者さまの平均入院期間は12日程。患者さまは入院されたと思ったら、慌ただしくすぐに退院や転院されていかれる状況です。処置をするだけで精一杯の毎日で、患者さまの名前や顔を覚えることもままなりません。

しかし、透析室では患者さまは2日に1度は来院されています。密に接する日々の中で、今では担当する患者さまのお顔だけではなく、そ

れぞれの血管までも頭に思い描けるようになりました。4時間程の透析時間は、穿刺や返血などで忙しいですが、毎日のようにお会いする患者さまの心身の変化をキャッチし、ケアしていけるように心がけていきたいです。

もちろん、知識や技術がなければ十分なケアはできません。私はまだまだ発展途上ですが、先輩方の助力を得ながら、成長し、成長した分を患者さまへの信頼に繋がるケアの提供に生かしたいと思っています。





信頼への第一歩

成城じんクリニック
看護部

加藤 明子



私が善仁会に入職してから半年以上が経ちました。透析療法に関わり、透析室で患者さまと向き合う中で多くのことを学び、責任の重大さを毎日感じております。

週に何日か透析をうけたり時間の制約があったり、水分や食事で気をつけなければならなかったりと様々な制限をうけつつも、生活を楽しむ工夫をされたり、シャント管理や内服治療などを含め複合的に健康管理をされているこ

とや、ご家族の話、旅行の話、心身の痛み、ご苦勞、喜びや悲しみを共有させて頂いていることはとてもありがたいと思います。

患者さまの心身の健康管理の支援ができるよう、安全な医療の提供、快適な環境づくりにつとめます。その為に専門的な知識の学習をすすめ、患者さまと信頼関係を結べるように自己研鑽に励んでいきたいです。



信頼が生まれる瞬間

青梅腎クリニック
事務部 ケアドライバー

佐々木 豊



日々、患者さまと接する時コミュニケーションの大切さを痛感しますが、この積み重ねの後に信頼が生まれてくると思います。

朝一番に、クリニックの顔として患者さまに接するわけですが、一例として今日は行きたくない・休みたいという患者さまもいらっしゃいます。これをその気にさせることからスタート致しますが特に、やさしさと思いやりのこもった本気の言葉で接しないと患者さまに聞く耳をもつ

てもらえませんし、信用もされません。クリニックに到着するまで気持ちを新たに透析のスタートラインに立ってもらおうべく色々な話しをしながら反応を伺います。患者さまとの信頼関係を築くには、いかに一日気持ち良く透析をして頂く為に、そういう環境を作って差し上げられるかにかかっていると思います。たかが送迎されど送迎です。



第32回 善仁会研究報告会

去る12月5日(日)、横浜市教育会館にて第32回善仁会研究報告会が行なわれました。杏林大学・第一内科学 要 伸也准教授による「CKD診療の新しい考え方と医療連携」と題された特別講演はCKD(慢性腎臓病)に関する心腎連関と蛋白

尿の意義、新しいCKD分類案、降圧治療のトピックスなどをテーマとした最新のお話と杏林大学における包括的なCKD診療への取り組みと医療連携についてのお話でした。今年的一般演題数は24、長期透析の患者さまへの試み、クリニカルパス、リハビリテーション、プロジェクトの成果などを中心とした発表となりました。

特別講演



杏林大学・第一内科学
要 伸也 准教授



「思いやりエキスパートナーズ」制度スタート

このたび善仁会グループでは、患者さまにいつも思いやりの心で接し、「知識」「技術」「態度」に優れた看護師を「思いやりエキスパートナーズ」として認定する制度をスタートいたしました。書類選考、筆記試験、小論文、研修、個別面接などの難関を経て選ばれた「思いやりエキスパートナーズ」は今回8名。

患者さまに信頼されるプロフェッショナルであると同時に、後進の指導にもあたります。

笑顔で頑張りますのでどうぞ、ご期待ください。



私たちの生活のすべては実は「信頼」できるものに支えられ、守られています。その上に安心や幸福があるのだと思います。(山本)

横浜第一病院バスキュラーアクセスセンター

バスキュラーアクセスに専門的かつ総合的に対応するセンターとして、最新の医療技術、設備のもと、迅速な診断、長期に安定したバスキュラーアクセスの作製、維持に取り組んでいます。



センター長 笹川 成

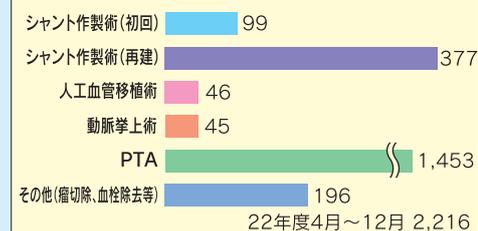


診療時間 午前9:00～12:00

休診日 日曜・祝日・年末年始

予約制 バスキュラーアクセス外来の診療は予約制となっておりますのでご来院前にお電話でお問い合わせください。(緊急を要する場合は別途ご相談ください。)

●横浜第一病院バスキュラーアクセス関連手術実績



専用電話：045-453-6709 FAX：045-441-1565